

令和５年度における糸満市の温室効果ガス排出状況について

令和５年度の糸満市における温室効果ガス（CO₂）の年間排出量は前年度より約 6.6 %（717.8 t）増加し、11,549.5 t でした。

令和５年度の温室効果ガスの総排出量は 11, 549.5 t－CO₂

詳細は以下のとおりです。

令和５年度 糸満市温室効果ガス排出量（排出要因別）

	排出要因		排出量 (t-CO ₂)	割合 (%)
施設	CO ₂	電力	9,549.3	82.7%
		ガソリン(公用車以外)	1.0	0.0%
		灯油	5.1	0.0%
		軽油(公用車以外)	3.3	0.0%
		A重油	540.7	4.7%
		液化石油ガス(LPG)(公用車以外)	850.9	7.4%
		都市ガス	0.0	0.0%
	CH ₄	161.0	1.4%	
	N ₂ O	252.8	2.2%	
	小計		11,364.2	98.4%
車両	CO ₂	ガソリン(公用車)	135.6	1.2%
		軽油(公用車)	43.0	0.4%
	CH ₄	0.3	0.0%	
	N ₂ O	5.6	0.0%	
	HFC	0.8	0.0%	
	小計		185.3	1.6%
施設 + 車両	CO ₂ 合計		11,129.0	96.4%
	CH ₄ 合計		161.3	1.4%
	N ₂ O合計		258.4	2.2%
	HFC合計		0.8	0.0%
合計			11,549.5	100.0%

※掲載値は、小数点未満を概数処理(四捨五入)しているため、合計や割合が一致しない場合があります。

・温室効果ガス種別で見ると、温室効果ガス排出量の大部分はCO₂（11,129.0 t-CO₂）であり、全体の 96.4 %を占めていました。CO₂ 以外では、CH₄（161.3 t-CO₂）、N₂O（258.4 t-CO₂）、HFC

(0.8 t-CO₂) を合わせて 3.6 %でした。

施設別及び車両別で見ると、施設からの排出量は 11,364.2 t-CO₂ であり、全体の 98.4 %でした。車両からの排出量は 185.3 t-CO₂ で、全体の 1.6 %でした。

エネルギー種別にみると、電力の使用による排出量が 9,549.3 t-CO₂ と最も多く、全体の 82.7 %を占めていました。以下、LPG（公用車以外）、A 重油、ガソリン（公用車）、軽油（公用車）の順でした。

令和 5 年度 糸満市温室効果ガス排出量（組織別）

組織			CO ₂ (t)	CH ₄ (kg)	CO ₂ 換算(t)	N ₂ O(kg)	CO ₂ 換算(t)	HFC(kg)	CO ₂ 換算(t)	CO ₂ 換算総計(t)	構成比
市長部局	庁舎	施設	860.9	0.0	0.0	0.0	0.0			860.9	7.5%
		車両	82.8	4.8	0.1	10.0	3.0	0.3	0.4	86.4	0.7%
		合計	943.8	4.8	0.1	10.0	3.0	0.3	0.4	947.3	8.2%
	市長部局出先	施設	185.6	0.0	0.0	0.0	0.0			185.6	1.6%
		車両	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
		合計	185.6	0.0	0.0	20.1	0.0	0.0	0.0	185.6	1.6%
	保育所・児童館	施設	227.4	1,589.2	39.7	61.9	18.4			285.6	2.5%
		車両	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0%
		合計	227.8	1,589.2	39.7	61.9	18.5	0.0	0.0	286.0	2.5%
	消防本部	施設	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0			87.5	0.8%
		車両	52.4	2.9	0.1	3.1	0.9	0.0	0.0	53.4	0.5%
		合計	139.9	2.9	0.1	3.1	0.9	0.0	0.0	140.9	1.2%
	観光施設	施設	721.7	0.0	0.0	0.0	0.0			721.7	6.2%
		車両	0.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0%
		合計	722.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	722.5	6.3%
	地下ダム	施設	1,529.1	0.0	0.0	0.0	0.0			1,529.1	13.2%
		車両	1.3	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	1.4	0.0%
		合計	1,530.4	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	1,530.5	13.3%
	運動公園	施設	636.7	0.0	0.0	0.0	0.0			636.7	5.5%
		車両	17.8	1.3	0.0	1.6	0.5	0.0	0.0	18.3	0.2%
		合計	654.5	1.3	0.0	1.6	0.5	0.0	0.0	655.0	5.7%
	各種公園	施設	98.8	0.0	0.0	0.0	0.0			98.8	0.9%
		車両									0.0%
		合計	98.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.8	0.9%
	市長部局合計			4,503.2	1,598.3	40.0	97.0	22.9	0.3	0.4	4,566.6
教育委員会	小中学校	施設	2,553.4	670.9	16.8	26.2	7.8			2,578.0	22.3%
		車両	13.4	1.0	0.0	1.7	0.5	0.3	0.4	14.4	0.1%
		合計	2,566.9	671.9	16.8	27.9	8.3	0.3	0.4	2,592.4	22.4%
	教育委員会出先	施設	936.8	0.0	0.0	0.0	0.0			936.8	8.1%
		車両	2.3	0.3	0.0	0.7	0.2	0.0	0.0	2.5	0.0%
	合計	939.1	0.3	0.0	0.7	0.2	0.0	0.1	939.4	8.1%	
教育委員会合計			3,506.0	672.2	16.8	28.6	8.5	0.3	0.4	3,531.7	30.6%
水道局	上下水道施設	施設	3,112.3	4,181.1	104.5	760.3	226.6			3,443.4	29.8%
		車両	7.4	0.7	0.0	1.4	0.4	0.0	0.0	7.8	0.1%
		合計	3,119.7	4,181.8	104.5	761.7	227.0	0.0	0.0	3,451.3	29.9%
合 計		施設	10,950.4	6,441.2	161.0	848.4	252.8			11,364.2	98.4%
		車両	178.6	11.1	0.3	18.8	5.6	0.6	0.8	185.3	1.6%
		全体	11,128.9	6,452.4	161.3	867.2	258.4	0.6	0.8	11,549.5	100.0%

※ 小数点第2位以下の数値を非表示にしている(小数点第2位を四捨五入した値を表示)ため、合計が合わないように見える場合があります。

組織別に見ると、市長部局が 4,566.6 t-CO₂（全体の 39.5 %）、教育委員会が 3,531.7t-CO₂（全体の 30.6 %）、水道局が 3,451.3 t-CO₂（全体の 29.9 %）でした。

各組織の排出量の内訳をみると、市長部局では地下ダムの 1,530.5 t-CO₂、庁舎の 947.3 t-CO₂、観光施設の 722.5 t-CO₂、が上位となりました。教育委員会では小中学校の 2,592.4 t-CO₂が教育委員会全体の 73.4 %を占めていました。